

TOPICS

漆の品質評価法に関する研究

—簡易屈折計による組成分析—

繊維生活部 藤島夕喜代(ふじしま ゆきよ)

fujisima@iriii.jp

専門：分析化学、漆化学

一言：お気軽に、ご相談ください。

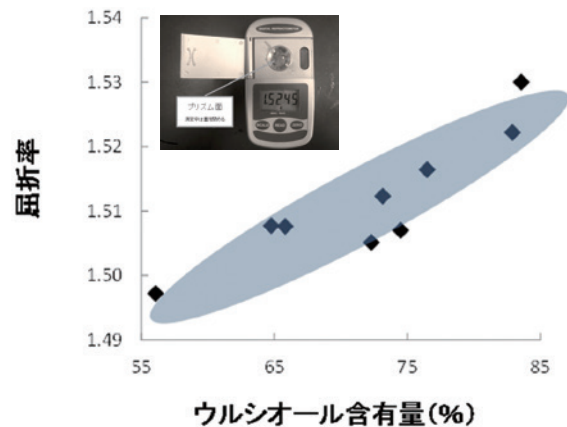


漆はウルシノキから採取され、古くより塗料として使用されてきました。漆は、主に、ウルシオール、水分、ゴム質などから成る混合物です。その主成分であるウルシオール含有量が多いほど品質の良い漆塗膜になると言われています。そのため、漆液の品質評価には組成分析が不可欠です。しかし、従来の目視による評価法は作業者の経験と熟練が必要であり、一方、JISで規定されている方法については手順が煩雑で分析時間を要するという問題がありました。

そこで、食品分野などで広く利用されている「屈折率」に着目し、漆液の組成と屈折率との関係を求めたところ、ウ

ルシオール含有量と屈折率との間に、図に示すような正の相関関係が認められました(図)。その結果、植栽現場で簡易屈折計を使って屈折率を測定し、生漆中のウルシオール含有量の概算を見積ることができるようになりました。

輪島・山中地区の漆器産地では、国産漆のブランド戦略、観光資源などの理由で植栽事業が展開されていますが、産地で採取した漆の品質評価に本法を活用していく予定です。



□ 生漆の屈折率とウルシオール含有量との関係
写真は簡易屈折計の外観